

「私はアイドル「りりあ」
まだデビューして半年なのにライブル達を
次々追い抜いてトップアイドルになっちゃった」

「これも全てマネージャーの
由未さんのおかげだわ」
ああー私……
なんて幸せなのかしら」

「このまま芸能界の大御所になって……
作詞とかさせてもらってうふふー
印税をガッポリとあどあど
大御所俳優なんかと
結婚しちゃって」

ライブ中に関わらず妄想中のりりあ！
だがりりあは知ってしまう……
芸能界の闇を……
恐ろしい性接待の実態を！

りりあがライブを終えて控室に戻ると
そこにはあり得ないマネージャーの姿があった！

「あら、もうそんな時間なの？
いくら私でもこの短時間で十人の相手は
無理があったわね」



「ひいっ、ゆ、由未さん！
何をやってるんです！」

「ついに見つかっちゃったわね、
まあ丁度いいわ、
回りくどく話す手間が省けて……
今日からはあなたも性接待を
やるのよお」



「何をそんなに驚いているの？
あなたまさか実力でここまで
のし上がったと本気で
思っていたの？」

「伝説の名器マネージャーの
私でももう限界なのよ！
もお、腰がガクガクよお！
気持ちよかったけどね！」

「それに今日はあなたじゃないと
どうしてもダメっていう
プロデューサーがいるのよお！
うふふ！交代しましょ！
あとはよろしくね！」

「私がそのプロデューサーだ！
ほほお！」

「りりあちゃんは現物の方が
いいね！可愛いよお！」

「ねえねえ！
まだ処女って噂は本当？
ぜひともそれを確かめてくたてね！」

「ふ、この人！知ってる！！
一見冴えないけど……とても
有名な剛腕プロデューサー！
でも「処女食い」という噂！
この人に歯向かうと芸能界で
生きてはいけないわ……」

次ページからは音声も交えて
お楽しみ下さいませ。

(私が処女だとバレると
確実に犯されちゃう！
どうにか遊んでいるアイドルと
思われたい！
こんな「処女食い」と性接待なんて
ありえないわ！)

あっ♡
ピカッ

「わ、私は……
処女じゃないです
そ、その……膣……
お、お〇んこは
ガバガバで
ビッチですから……」

むにゅ♡

エビエ♡

「ひゃん！
き、聞いていますか？
やだぁ……ちよつ
そんなぁ！胸が見えて！
こ、こんな事ダメですよぉ！
いやぁん！そんなに揉むな！
あ……も、揉まないで下さい」



「ひぐうう！お願いだからあ
ちよつと待って……」

「そ、こいつ何なの？
いつの間に下着を脱がしたの？
嘘でしょ？それにすごい力！
とても逃げられないわ
胸がガラスに押しつけられて
冷たい！くうふう
何か固いのがお尻に
当たってるう！」

「いやああああ！
本当にピツチなんですう
お願いですから
入れるのだけは許して下さい」

や、や、や

こ、こ、こ

（ダ、ダメだわ
処女と確信して喜んで
笑っているわ！あああ
興奮した息遣いが怖いのお
チ○ポがねじ込まれるう
やだああ！入れてきでるう
ギチギチつてえ）

「無理無理い！
そんなの入らないい
あひくううう
や……やあああ……痛い！
ああああん
そんな奥に！ダメエー！
壊れちゃううう」

ガチッ
ガチッ

ズシッ

(はう！なんて痛さなのお
これが処女喪失う
想像以上だわ
ここまで痛いなんてえ
しかもこんな性接待で……
処女喪失しちゃうなんてえ！)

「ああああ！
いやいやああん
動かさないでええ
ホントに痛いのお
締めまりがいいってえ？
そんなの知らないよお
ストップうう
もおいやああああん」

(血が見えたって喜んでるう
ヨ、ヨイツ……
処女膜にしか興味がないんだわ
最低！最低よお！
初体験がこんなだなんてえ
こんな男に大切にしていた処女を
奪われちゃうなんてえ！)



(はぁ……はぁ……)
次はピッチ好きプロデューサーって……
変な媚薬を飲まされて……
もう頭がボーとしちゃうのぉ
さっきまで処女だった私にピッチって
無理があるでしょうに……)

ふるふる

「ぎぼじいいい……
えへへ……」
チ○ポおくだいちゅきいゝ
おがじでえゝ
なまだじでえゝ」

(私は何を言ってるのぉ？
ああ……これが媚薬の効果……
あはは……また出されてる……
血に混ざって精液が垂れてきてるうー
痛みが消えて腰を降っちゃうのぉ)

ガクッ……
ガクッ……



「次は何？」

媚薬の効果が切れてきた……

ああ……お腹が……

ズキズキしてきちゃうー」

「ハッピーバースデー……トウユ
ハッピーバースデートウユ……」

（由未さんはこれが最後って言うけどお

どうしてこんなゲーキ女体盛りなのよお！

誰の誕生日なの？）

あーっ♡

アハハ

ハ

あー♡

ハ

ハ

アハハ

アハハ

ズキッ！

ズキッ

ズキ

「え？これを聞いているあなたの誕生日？
そ、そう……お、おめでとございます
え？うそお？処女喪失も全部聞いていたの？
あなた……へ、変態ですね！恥ずかしいわ……
でも私で射精できたの？気持ちよかった？
私……もう処女でないけど
りりあのファンでいてくれる？
そう！ありがとね！
こんな私でよければ美味しく食・べ・てー！」

FIN